

1 調査の概要

(1) 調査の目的

- ① 調布市立小・中学校の児童・生徒における学力・学習状況を把握し、施策の改善・充実に生かす。
- ② 調布市立小・中学校教職員が、本調査の結果を踏まえ、授業改善に役立てる。

(2) 調査日と調布市対象児童・生徒数

- ① 令和3年5月27日(木) ② 小学校20校 第6学年 1,797名 中学校8校 第3学年 1,270名

(3) 調査内容

- ① 教科に関する調査(小学校:国語,算数 中学校:国語,数学)
- ② 質問紙調査(「学習意欲」「学習方法」「学習環境」「生活の諸側面」等に関する調査)
※新型コロナウイルス感染症の影響により、調査日は例年より1ヶ月後ろ倒しとなった。

2 調布市教育プランとの関連

(1) 施策及び主な取組

施策2【確かな学力の育成】<主要事業 5 基礎的知識・技能,学習満足度の向上と学ぶ意欲の育成>

主な取組 ○ 一人一人の児童・生徒の主体性を育み,少人数・習熟度別指導等による確かな学力の育成 ○ タブレット端末等,ICT機器の計画的な整備・活用による学習活動の充実

施策5【魅力ある学校づくりの推進】<主要事業 18 教職員の指導力・人権意識の向上>

主な取組 ○ 新たな学習指導要領に対応した「授業改善推進プラン」に基づく取組の推進

(2) 成果指標 (令和2年度全国学力・学習状況調査は未実施のため令和2年10月に実施したアンケート調査からの参考値とする)

「自分たちで課題を立て、話し合いながら学習活動に取り組んだ」と回答した児童・生徒の割合 ※全国学力学習状況調査質問紙調査		校種	R4目標	基準値	R1	R2	R3
		小学校	80%	78.6%	71.1%	77.9%	83.5%
		中学校	80%	74.6%	65.8%	78.8%	78.6%

(3) 今後の教育委員会の取組

- 児童・生徒の自己肯定感を高める指導の充実
 - ・ 全教育活動を通じた人権教育・道徳教育の推進
 - ・ 自己指導能力の育成をめざす生活指導の充実
 - ・ 学年・学級経営の充実
 - ・ 特別支援教育のさらなる推進
- 「カリキュラム・マネジメント」の実現,「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進
 - ・ 教科等横断的な視点に立った校内研究及び研修の推進
 - ・ 1人1台タブレット端末を活用した授業づくりの推進
 - ・ 学習指導要領の着実な実施・徹底・指導
 - ・ 授業改善に向けた校内研究の充実及び研究推進校等の成果の普及

3 調査結果

(1) 国語

小学校		平均正答率(%)		
		調布市	東京都(公立)	全国(公立)
全体		70	68	64.7
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1)言葉の特徴や使い方にに関する事項 72.5	69.9	68.3
		(2)情報の扱い方にに関する事項		
		(3)我が国の言語文化に関する事項		
	思考力・判断力・表現力等	A 話すこと・聞くこと 83.8	81.8	77.8
	B 書くこと 63.5	62.7	60.7	
	C 読むこと 57.0	53.5	47.2	
評価の観点	知識・技能	72.5	69.9	68.3
	思考・判断・表現	68.7	66.4	62.1
問題形式	主体的に学習に取り組む態度			
	選択式	76.9	75.6	71.7
	短答式	76.4	71.3	70.6
	記述式	46.6	44.2	40.2

(2) 算数・数学

小学校		平均正答率(%)		
		調布市	東京都(公立)	全国(公立)
全体		76	74	70.2
学習指導要領の領域	A 数と計算	68.1	65.4	63.1
	B 図形	65.7	63.7	57.9
	C 測定	80.0	77.7	74.8
	D データの活用	81.0	79.5	76.0
評価の観点	知識・技能	79.7	78.0	74.1
	思考・判断・表現	70.5	68.3	65.1
問題形式	主体的に学習に取り組む態度			
	選択式	81.6	80.1	76.0
	短答式	80.9	79.1	75.8
	記述式	59.0	56.2	53.0

中学校		平均正答率(%)		
		調布市	東京都(公立)	全国(公立)
全体		70	67	64.6
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	84.4	81.9	79.8
	書くこと	62.9	59.7	57.1
	読むこと	56.5	52.5	48.5
	伝統的な言語文化と国語の特徴に関する事項	77.6	76.1	75.1
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	63.2	59.2	56.0
	話す・聞く能力	84.4	81.9	79.8
	書く能力	62.9	59.7	57.1
	読む能力	56.5	52.5	48.5
	言語についての知識・理解・技能	77.6	76.1	75.1
問題形式	選択式	70.0	67.0	63.9
	短答式	76.5	75.1	74.4
	記述式	63.2	59.2	56.0

4 分析

(1) 成果(◎)及び課題(▲)

令和2年度は、2か月間の臨時休業の影響により学力の低下が心配されたが、調布市の児童・生徒の平均正答率は、国及び都の平均正答率と比べ、全ての項目において上回っており、学力の定着が見られた。

<国語>

◎「話すこと・聞くこと」についての指導の充実が成果を上げている。
▲「読むこと」については、他の項目に比べ平均正答率が低いことから、中心となる語や文を見付けて要約する、文章に表れているものの方や考え方を捉え、自分の考えをもつような指導の充実を図る必要がある。

<算数・数学>

◎与えられたグラフ・表・図形から、必要な情報を読み取ることができるようにする指導の充実が成果を上げている。
▲記述式の平均正答率が低い傾向があることから、問題の解決方法や図形の性質を自ら考え、数学的な表現を用いて説明する指導の充実を図る必要がある。

(2) 授業改善のポイント

○ 児童・生徒が学習課題を明確にもち、単元の位置付けを意識した学習が行える単元構成を意識する。○ 課題解決に向けて計画を立てたり、他者と協働したりしながら課題を解決する学習過程の充実を図る。○ 学習を振り返ってよりよく問題解決しようとする態度や、学習したことを生活や学習に活用しようとする態度を醸成する学習を設定する。
○ 国語では、図や表と文章を結び付ける、文章の内容を捉えた上で自分の考えをもつなどの読むことについての指導の充実を図る。
○ 算数・数学では、事象を、数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、根拠を基に筋道を立てて考え、説明することができるよう、教材提示や発問の工夫を行う。